

2025年8月1日

【SUPER GT 第4戦 / 富士スピードウェイ】
大会直前情報



2025年SUPER GT第4戦は、ゴールデンウィークに続き富士スピードウェイが舞台。SUPER GT史上、公式戦では初となるスプリントレースで行われます。

SUPER GTは、ドライバー2人が1台のマシンをシェアし、300kmのレース距離を基本としています。過去には、鈴鹿1,000kmがカレンダーに組み込まれることもあり、500~1,000kmという長い距離のレースが行われることがありますが、公式戦で短距離のレースを開催するのは初めてのこと。今回は、8月2日(土)には通常の2クラス混走でのスプリントレース(レース1)、3日(日)はGT500クラス、GT300クラスがそれぞれのクラスだけで戦うスプリントレース(レース2)という、今までにないレースフォーマットが採用されています。

レース1の周回数は35周(約160km)。予選から決勝まで1セットのタイヤを使用するためトータルで40周程度の走行距離を想定しており、これは300kmレースのおよそ1ステント分に相当します。レース2は50分間の時間レースになっており、こちらも予選まで含めるとレース1とおおむね同じような周回数になると想えられます。

混走ではないレース2では、GT500クラスはGT300クラスを追い抜く場面がないため、トラフィックにかかってペースを下げることがなくなります。通常のフォーマットでは起きない、常に高速で走り続けるという状況は、タイヤには普段とは違う負荷がかかる可能性があります。そういう点においても、今大会に向けたタイヤはパフォーマンスの高さは残しつつ耐久性を確保したものを準備しました。

GT300クラスは、現在ランキングトップ6の中にヨコハマユーザーが3台入っています。今大会はサクセスウェイトを降ろしての戦いになるため、ウェイトという足かせを降ろした強豪チームが大量ポイントを獲得できることが期待されます。GT500クラスも、6月に開催された第3戦マレーシア大会では「WedsSport ADVAN GR Supra(国本雄資選手/阪口晴南選手)」がポールポジションを獲得し、暑いコンディションでの速さを見せました。同じく夏場の

高温域での戦いとなる今大会でも力強いパフォーマンスが見どころです。「リアルizeコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」もベテランの松田選手と速さのある名取選手のそれぞれの強みを活かし上位入賞に期待がかかります。

SUPER GT に挑むどのチームも初めてとなるフォーマットで展開予測の難しい 1 戦となります。どのチームも最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、足元を支えるタイヤメーカーとして今大会も全力で挑みます。

